

ようこそ 教育長室へ

教育長 勝山 浩司

新年を迎え、早くも半月が過ぎました。いかがお過ごしでしょうか。

私はと申しますと、年末年始の骨休めと同時に、改めて教育を見つめる時間をいただきました。

私は、市川市に着任する以前、文部科学省の業務に従事しておりました。そこでは、勤務のほとんどを費やし、教職員定数や学級編制の改善、そして義務教育費国庫負担金の業務に取り組んでまいりました。さりとて、生涯2度目の教育長として市川市に着任した今や、学校現場はICT活用の新時代を進んでおります。

ただ、「不易と流行」と言われる中、教育では特に、流行に左右されず、いまだ変わらないものもあって感じています。それは、今も昔も「学校・教育の主人公は、子どもたち」であり、「学校の力は、管理職のリーダーシップと教員の授業づくり・生徒指導等の実践」、そして、「家庭や地域の力は、学校や教育行政への応援団」であり、「教育行政の役割は、子どもの『学び』と『育ち』をしっかりとサポートする環境整備」であるということです。

では、要となる教員に求められる、最も基本的な資質は何であろうかと考えてみます。

私が思うのは、「子どもが好き」ということです。もちろん業務ですので、「好き」なだけでは務まりません。ただやはり、「子どもが好き」ということが出発点であろうかと思うのです。

「先生！」と呼ばれて振り返ると、そこには子どもの笑顔が……。その喜びに突き動かされ、毎日働くのが教員であり、子どもとの出会いや触れ合いを通じてやりがいを持つ仕事が教育であります。教育は、子どもたちが元気に生きていくことへの限らない励ましといえるでしょう。

使い古されている言葉ではありますが、「教育は人なり」といいます。

市川市教育委員会は、子どもたちと日々接する教員、そして教員を支える学校職員と共に、これからも力一杯伴走してまいりたいと思っております。